

今週（9月25日から9月28日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、月末週ということもあり、調整から一部業態から取り上がる動きが見られたが、全般的には落ち着いた取引となった。日銀当座預金残高は390兆円台半ばと高水準で推移した。

無担保コールO/Nの取引は、地銀業態は▲0.080～▲0.035%の幅広いレンジで、都銀・信託・証券業態は▲0.086～▲0.070%での出会いが見られた。加重平均レートは先週に引続き、概ね▲0.06%台での推移となった。ターム物に関しては、10月スタートのショートターム物で、▲0.035～▲0.030%での出会いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは28日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,891億円（期落ち額1,881億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.12～▲0.10%程度のレンジでの取引となった。先週に引き続き、投資家勢の一定の資金調達ニーズが見られた。27日のT/Nは四半期末越えの取引にあたったことで、▲0.20～▲0.11%程度での出会いが見られた。SC個別銘柄では、5y134～136、10y340～351、20y164～165、30y57～59にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、中間期末越えの動きが落ち着いたものの、売り物が薄く堅調な展開となった。週末の3M物入札は年末越えとなることから、旺盛な需要が見られた。

25日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.002%、按分落札利回較差±0.000%と落ち着いた結果となった。

28日に実施された3M物の入札は、償還日が年末越えとなるため、強い結果も予想されていた。WI取引において▲0.21～▲0.18%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.2031%、按分落札利回▲0.1860%とWI取引を反映して、レートが前回比（平均▲0.1142%、按分▲0.1082%）で大幅に低下する結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は四半期末の最終週にあたり活況なマーケットとなった。有利子負債削減や銀行借入へのシフトといった要因から、月末の償還額は3兆5,000億円程度となり、月末発行の7,000億円程度に対して例年通り大幅な償還超となった。期明けスタートの発行では、石油・機械・卸売・鉄鋼業態等で大型案件が実施され、月末発行を超える9,000億円超の発行が見られた。期末発行では日銀オペ見合いでのレート低下余地を探る動きは後退したものの、投資家の再運用や引受ディーラーのポジション確保の動きが根強く、▲0.01%程度の低い水準での出会いも多く見受けられた。

25日にはCP等買入オペが事前予定から500億円増額の5,000億円でオファーされた。例年通り期末に市場残高が減少したことで、レート低下の予想も一部で見られていたが、前年比で概ね2兆円程度残高が増加したため、一定の売却ニーズがあったことから、平均落札レート▲0.009%・按分落札レート▲0.015%と前回比（▲0.01%・▲0.016%）で両レートともに僅かに上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
9/24（月）						
9/25（火）	23,940.26	0.125	112.95	△ 0.062	△ 0.111	3,958,000
9/26（水）	24,033.79	0.120	112.92	△ 0.062	△ 0.109	3,960,200
9/27（木）	23,796.74	0.115	112.83	△ 0.060	△ 0.143	3,947,900
9/28（金）	24,120.04	0.120	113.47	△ 0.064	△ 0.114	3,955,800

来週（10月1日から10月5日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/1 (月)	9月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)				8月の米建設支出 9月のISM 製造業景況指数
10/2 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 9月のマネタリーベース(日銀 8:50) 9月の消費動向調査(内閣府 14:00)	10Y 22,000億円 10/3発行	交付税借入 10,500億円 10/11借入		
10/3 (水)	10月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				9月のISM 非製造業景況指数
10/4 (木)		流動性供給 5,000億円 10/5発行			8月の米製造業新規受注・出荷・在庫
10/5 (金)	8月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 9月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 8月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00) 8月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 43,000億円 10/9発行			8月の米貿易収支 8月の米消費者信用残高 9月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/1 (月)	1,000	▲ 29,300	▲ 28,300	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 1,900 ▲ 100 2,900	1,900	2,800	▲ 25,500	TB3M発行▲43000償還42800 2Y発行▲21000
10/2 (火)	0	▲ 6,000	▲ 6,000	国債買入			0	▲ 6,000	
10/3 (水)	0	▲ 53,000	▲ 53,000				0	▲ 53,000	消費税・法人税揚げ 年金保険料揚げ 社会保障 10Y発行▲22000
10/4 (木)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	
10/5 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	恩給 流動性供給発行▲5000
週間合計	▲ 1,000	▲ 96,300	▲ 97,300	—	900	1,900	2,800	▲ 94,500	

10/1は日銀予想、10/2以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、3日に法人税・消費税の税揚げがあり、大幅な不足が見込まれる。無担保コールO/N加重平均レートは若干上昇することも考えられる。

レポ市場は、積み期後半に突入し、投資家の資金調達ニーズが注目される。

短国市場は、5日に3M物の入札が実施予定となっている。強い結果となるかどうか、需要動向が注目される。

CP市場は、期明け後は調達再開の動きが活発化し、投資家の玉不足感も解消されることから、引受レートは浅いマイナスから0%前後での狭い範囲内での出合いが続く展開が予想される。また、4日にはCP等買入オペが2,000億円を実施される予定となっている。

主要なイベントとしては、国内では1日に日銀短観、海外では5日に9月の米雇用統計の公表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入